

ちよつと先を行く私たちが、  
あなたの話し相手です。

私たちは  
ピンクエプロンに  
ピンクリボンバッジを  
つけています。



## ● どんなことを聞いてもらえるの？

治療の乗り越え方、生活のこと、  
仕事のこと、下着のこと、子どものこと……、  
あなたがそのとき話したいこと、なんでも。  
体験者に会ってみたい、という動機でもかまいません。

- ボランティアって、どんな人？  
一定の研修を受けた乳がん体験者です。  
一人あたり30分～40分、一対一でお話を聴きます。
- どこでやってるの？  
がん研有明病院9階東病棟(乳腺科入院病棟)です。
- どうやって申し込むの？  
面談を希望される方は、入院後に、がん研有明病院9階  
東病棟ナースステーションにお声かけください。  
申し込み用紙に必要事項を記入いただきます。

- いつやってるの？  
週に3日(火・木・土)、  
1日につき2人まで  
お受けしています。  
曜日による時間帯は  
右の表のとおり。

火曜日	13時～
	14時～
木曜日	13時～
	14時～
土曜日	10時～
	11時～

### 活動の歴史

アメリカで行われていた同様の活動を、乳がん患者会  
「あけぼの会」が1990年代はじめに日本に導入。  
がん研有明病院では2007年からスタート。2012年からは  
この病院で手術を受けたメンバーも活動に参加。  
現在、ほぼ全員が、がん研有明病院での治療経験者です。

## 面談を受けた方の声

- インターネットでも情報は得られますが、  
一対一での血の通った交流、励みになりました。
- 家族や友人に気持ちを話しても、  
なんとなく違和感を覚えたのですが、  
この面談ではしっかりきてうれしかったです。
- 経験者が実際に感じたことや  
思ったことには重みがあり、心に響きました。
- 元気に活躍される姿を見て、  
「私も乗り切れる」と思うことができました。

- ・ 面談相手の条件(再建の有無、術式、年齢など)はお選び  
いただけません。
- ・ 医療に関することは、医師・看護師に相談ください。



## 1人で抱え込まないで…。

私たちが、面談のお相手をさせていただきます。



上野貴之乳腺外科部長を囲んで。

不安がやわらぎ、  
知りたいことがわかって心が軽くなる



がん研有明病院 乳腺センター長  
大野 真司

乳がんになると、誰もが不安になりとても悩みます。同じ病気を体験したからこそできること、体験した人にしかわからないことがあります。

欧米のがん専門病院では不安や知りたいことを聞いてもらったり、一緒に考えてもらったりする、同じ体験者のがん医療の大切な一員となっています。

訪問活動をされているボランティアの方々と会ってみませんか。不安がやわらぎ、知りたいことがわかって心が軽くなるのではないかと思います。

# GBCSS

**GBCSS** (Ganken Breast Center Support Service) は、がん研有明病院乳腺センターの医師、看護師、9階東病棟看護師、がん相談支援センターのスタッフの方々にご支援いただいている活動です。

問い合わせ先

[gbcss.cue@gmail.com](mailto:gbcss.cue@gmail.com)



# 乳がん体験者と **話**

をしてみませんか。

# GBCSS

Ganken Breast Center Support Service



がん研有明病院訪問ボランティア